

ひかりの丘

第94号

2013.8.30

社会福祉法人 いわき福音協会

福島整肢療護園

〒970-8001

福島県いわき市平上平塙字

古館1番地の2

TEL.0246-25-8131

FAX:0246-22-1259

<http://www.ryogoen.jp/>

E-mail:info@ryogoen.jp

りょうご園キャラクター

「りょうごエンジェル」誕生！

りょうごエンジェル



皆さまにりょうご園に親しみを持つ事や目的に
キャラクターを作成しました。
その名も...
「りょうごエンジェル」

詳しくは
P6へ

目次

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 第3病棟 25年度の新しい取り組みを紹介します—— | 2 HAPPY通信「和子さんのおでかけ♥」 |
| りょうご園、iPad使い始めました！！ | 「縫製ボランティア」—— 5 |
| 子ども達の新たな世界が広がり始めています♪ | 3 ご存知ですか？～りょうごエンジェル誕生～—— 6 |
| お知らせと報告 | 4 りょうご園カフェへようこそ・編集後記 —— 6 |

第3病棟

25年度の新しい取り組みを紹介します！

H24年から当園でも新体制移行に伴い、第3病棟での活動内容の検討やより入園者に寄り添う個別の関わりなど少しずつ新しいことに取り組んでいます。今回、その取り組みを紹介します。

その1

法人他事業所との交流

同じ法人ではあるものの、ほとんど交流することができずにいました。社会交流の一環として法人他事業所と交流をし、繋がりを持つことで、新たな活動への掛橋となればという思いで開始しました。

5月末にはボボロに出掛け、利用者との関わりを楽しんできました。今後、みはま福祉祭、カナン・野の花祭への参加も予定しており、利用者の方や地域の人との交流を図る予定です。

その2

第1病棟入園者・保育士との交流活動

4月から第1病棟の入園者3名（成人）と保育士がミュウクラブや行事に参加することで、雰囲気が変わり活気のある声や笑顔であふれています。保育士9名、各自が持っている保育スキルを発揮することで、活動のバリエーションが増えています。関わる職員が増えることでプレイバルーンなどダイナミックな活動が実施できたり、入園者が主体的に活動できる機会を増やすなど、余暇活動の質の向上に努めています。



オープンミュー
「楽器遊び」



その3

グループ活動

今まで全員対象のミュウクラブ（集団余暇活動）を行ってきましたが、新年度になり、個別的な関わりもより充実していこうと、6月よりグループ活動を取り入れています。グループ活動を行うことで、一人ひとりに合った活動も実施することができ、より個人と向き合うことで新たな反応などの気付きへと繋がっています。1病棟保育士も入ることにより、一対一の関わりも可能となり、いつも（集団余暇活動）とは一味違った時間を過ごしています。



園内散策時の一コマ（外気浴）



ベッドサイドでの活動



新たな取り組みを開始し、活動の幅、人との繋がりも広がっています。今後もより良いサービスを提供できるよう、入園者に寄り添いながら努力して行きたいと思います。



りょうご園、iPad使い始めました！！ 子ども達の新たな世界が広がり始めています♪

当園を卒園し外来でリハビリに通われ、昨年27歳で亡くなられた掛田尚弥様のご家族から寄付を頂き、iPadを2台購入しました。iPadは「魔法の窓」と呼ばれています。子ども達が新たな窓を開き、それぞれの可能性が引き出されることが期待されます。そこで、言語聴覚士・作業療法士に現在の利用状況や今後の展望を聞きました。

運動障害や言語障害をもつ方の中には、伝えたいこと、やりたいことがたくさんあるにも関わらず、障害のためにそれが実現しにくく、困難を抱えている方が多くいらっしゃいます。

これまで言語聴覚療法では、こうした方々に対して絵や文字を使ったコミュニケーション訓練やスイッチ等の機器を利用した活動の支援を行ってきましたが、今回iPadを寄贈していただき、これを使った支援の幅が広がった事で、多くのお子さんが“できること”“楽しめること”を増やすことができました！！



お昼ごはん なに？

質問された事に対しYes/Noで答える事の多かったあゆみさん。iPadを使う事で、自分で質問する機会が持てるようになりました。



iPadたいこのたつじんげーむ
すこいだいすき
やさいづくりげーむしあわせ
シンジョンKARAしゃしんみる
おもしろい



最近のマイブームは太鼓の達人と野菜作りのゲームだそうです。ゲーム以外ではネット検索もし、好きな芸能人は写真を山ほどダウンロードし、スライドショーにして(BGM付き！)みんなに見せてくれます。

言語聴覚士のコメント

iPadは障害のある方でも使いやすいよう機能設定できます。またアプリには文章入力やお絵かき、本読み、楽器演奏を簡単な操作でできるものからシンボル(絵)を選択すると音声で読み上げてくれる等があります。

これらの機能やアプリを一人ひとりのニーズに合わせ上手く利用できる、とても便利な機械だと感じます。今後もiPadの活用を進める事で、障害のある人も好きなことを楽しみ、自由に伝え、学び、その人らしい充実した生活の実現につながるよう、引き続き取り組んでいきたいと思います。

作業療法士のコメント

iPadには、見る事や操作する事が苦手な子にもゲーム感覚で課題に取り組めるアプリがあったり、時間感覚が苦手な子に砂時計式のアプリを使う事で、残りの時間を把握しながら作業するといった使い方もできます。楽器が演奏できるアプリでは、軽く触ると素敵な音が出るので、また触りたいといった自発性の向上にもつながると考えます。また、生活場面を表すイラストを見ながら子どもと親と支援者が一緒に目標を決めるツールとしてADOC-Sというアプリがあるなど、iPadは目的も使い方も多様に変化でき、今後の作業療法場面で活用できると感じています。



重心通所事業が
変わりました！

お世話になった先生方
へのメッセージ

平成12年から通称「ナザレ園」にてサービスを提供して参りました、重症心身障害児(者)通園事業が、本年4月より從来のナザレ園を含めた法人内他事業所の空きスペースを活用して「エデンの家」として再スタートする事となりました。

具体的に申しますと、未就学のお子様は従来通り「ナザレ園」に、また学齢児のお子様については放課後デイサービスを新たに立ち上げ、法人内事業所の「光の家」の空きスペースにて受入を開始し、学卒者についての生活介護事業は「力ナン村」の作業所の一部を改修してサービス提供を始めました。

来春には、当園第3病棟北側スペースに児童一体型の多機能事業所「エデンの家」が整備される予定となつておりますので、この移行期の1年間は暫定的なサービス提供となります事をご了承いただくと共に、新たに建築予定の「エデンの家」へのご支援・ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

長かつた冬が終わり春の息吹を実感できるようになつた頃、当園にとつて寂しいお知らせが続きました。

当園の障害児(者)リハの基礎を湊治郎先生や湊純副園長と共に築いてこられた、湊正美先生が3月末をもつて退職されました。先生の本来の専門は麻酔科でしたが、当園に赴任されてからリハ医としての研鑽を積み、主に作業療法を注ぎ、多大なる功績を残さされました。

また、当法人の副理事長である宇留賀一夫先生も同時に退職されました。先生は長く当法人の役員を務めながら、当園の内科医として週1回の外来業務を担当していただき、外來患者さんだけでなく、法人職員の健康管理にも大変気を配つてくださった事は忘れ事が出来ません。

最後に、平成7年4月から平成16年8月までの間小兒科医としてご勤務いただきました石川淳一先生が、5月中旬にご逝去されました。(合掌)

中期計画検討委員会の
発足について

出張報告
(第47回日本作業療法学会)

寄附者ご芳名

昨年10月、福島整肢療護園は創立60周年を迎えました。現在療護園に勤務する職員は110余名おりますが、若い職員の中には定年まで勤めると、創立100周年を祝うことができる方々がきっといると思います。

療護園の数十年先を想像する事はたやすくはありませんが、私たちは未来の人々にきちんと療護園を引き継ぐ社会的責任があると思います。

そんな療護園の5年後、10年後の方向性を検討するため、各セクションでの責任者を中心、この6月より中期計画検討委員会が設立されました。

初めての会議の時に渡邊園長が挨拶の中で言われたのは、療護園のこれから10年の総合計画(姿をつくる)と、基本計画(骨組みをつくる)を早急に検討してほしいということでした。

作業療法士は、「その子にとって重要な意味のある作業」がうまく行えるよう支援したいと思っています。そのためには、その子の生活を見て理解し、どんな支援の型が望ましいのか、既存の型にとらわれず考へる必要性を再認識しました。地域で活動する多くの作業療法士の姿を見て、大きく心が動かされた学会でした。

6月28日～30日、大阪国際会議場において本学会へ参加しました。今年のテーマは「地域に暮らす生活を支える作業療法」とし、数々の講演やナイトセミナー、1,000演題を超えるポスター・口述発表、機器展示等があり、生活を支える作業療法の世界を網羅するプログラムになりました。

その中で私は、発達に関する内容を選択し学びましたが、特別支援教育に関わる作業療法士の取り組みや、発達障害に関する地図での実践報告が多數ありました。ここ数年で大きな変化です。

○林俊明 様
○米海軍横須賀病院 様
○鈴木芳子 様
○高岡忠 様
○一般社団法人エールジャパン 様
○福島キワニスクラブ会長和合アヤ子 様
○太田明孝 様
○福島のこどもと輝き隊うさぎ難事業部長青木克彦 様
○太田明孝 様
○福島のこどもと輝き隊うさぎ難事業部長青木克彦 様

(順不同)

ご支援をいただきました皆様へ、深く感謝を申し上げます。



福島のこどもと輝き隊様より
いただいた「うさぎ難」

Happy通信

今回のハッピー通信はりょうご園で暮らしながら有償サービスを使って外出する和子さんのハッピーと縫製等環境整備で活躍してくださっている坂本さんの活動によるハッピーをご紹介します。

和子さんのおでかけ ❤

1病棟で生活する伊東和子さんは以前よりりょうご園では経験できないたくさんのことをしていました。平成20年よりいわき福音協会の事業であるホームヘルプステーションシャロームを活用してお出かけしています。今回は6月に外出された様子をお伝えします。

H22年よりボランティアとして和子さんと交流のあった岩瀬由香(旧姓柴田由香さん)さんから結婚式に招待を頂いた和子さんは6月某日結婚式に参加するため、シャロームを利用してお出かけしたのでした…



シャロームの皆さんも結婚式に参加する支援は経験がなかったそうで、「今回こうしたお手伝いができ、ハッピーです」とのコメントを頂きました。

私は結婚式に行ったことが嬉しかった。
和子

縫製ボランティア

当園では毎月第3水曜日に縫製ボランティアをお願いしています。入所者の衣類等の改良や病棟で使用するカーテン・マット・ふきんなどを作成して頂いています。

2011年3月11日の東日本大震災に伴う原発事故により避難区域から当園の住宅に避難された坂本さんご一家がおられます。ご子息が車椅子を利用している事もあり、御縁があり当園に避難されました。縫製ボランティアは坂本さんが避難された住宅の1室を利用して行っておりました。避難以降毎月のように縫製を依頼しているのをみて、坂本さんの方から「お手伝い出来る事があれば」という事でお声をかけて頂きました。利用者の障がいに合わせて、衣類の工夫も必要であり、複雑で難しい衣類の縫製をお願いする事がありました。以前から縫製ボランティアをして頂いている教会奉仕の方々と共に、こちらの要望を理解した上でより良い方法を考えて頂き、当園入所者の為にご協力頂いております。本当にありがとうございます。



ご存知ですか？～りょうごエンジェル誕生～

職員から「りょうご園のキャラクターがあると親しみが持てるのでは？」という声があり、キャラクターを作る事になりました！キャラクターを募集し、今年4月に職員、入園者、ご家族、外連の皆さんに投票をしてもらい決定したのが“りょうごエンジェル”です！

りょうごエンジェル

福島整肢療護園の建物のシンボルを洋服にし、キリスト教のイメージで天使にしました。また、エンジェルは羽があるので、入園者・利用者が地域に羽ばたく姿を重ね合わせ描いてみました。

そして、エンジェルの幸福をもたらし、心の掻き所になるイメージのように、福島整肢療護園も地域社会においてそのような存在でありたいという思いで、デザインしました。（キャラクター作成者／保育指導課一同）



今年のふれあいの会では名前とともに発表。シンボル旗のエンジェルの周りにみんなで押印（ハート型）を押し、とてもステキな旗ができました。現在中央廊下に掲示されています。

このコーナーでは、当園のスタッフが好きなこと、気になることなどを自由におしゃべりします。スタッフの新たな一面がわかるかも！



第8回は、37年間故郷沖縄で保育士として活躍され、震災後心揺さぶられる想いを感じ被災地のこの福島に自身で来られ、今ではりょうご園の名物おばあとして人気者の徳里智恵子さんです。



『めんそれ♪不思議おばあの或る一日』～ちむぐくる～

『被災で荒涼と広がる瓦礫のなかで、心が震えて泣いていたと知りました。その瓦礫の中に、小さく真っ赤に咲いている花を見つけて「希望の光だ！」とつぶやいていた。』

その想いが繋がり復興を願い美術館は開設されたと母親は語っています。

7月21日、私はナビ友といわき市遠野町にある「或る美術館」を尋ねることにしました。道中の車窓には、濃淡の木々と穏やかでバッチャーワーク模様に広がって素敵でした。

しかしながら、目的地近くに来てもナビ友は応えてくれません。案内通りに走行しなかった私に、原因があったのでしょうか。五里霧中…そんな行先不安を感じていた時に、目の前に小さな公民館の前広場で、お父さん、お母さんの声援を受けながら優しくスイカ割をして遊んでいる子どもたちの姿が目に映りました。その中にも、木陰にひとり、ボツンと座っている男性（お父さん？）に「或る美術館」の場所を尋ねたところ、「ショウコチャンノトコロネ」と丁寧に教えてくれ感謝です。無事に目的地に辿りつくことができました。

太陽の光をシャワーのように浴びてキラキラ輝いているまるでお城のような大きな建物でした。玄関の門扉を開けると和服姿の女性が笑顔で迎えてくれました。一筆一筆の文字に思いを込めてみている人の心に懸命な思いを訴えている何かを感じました。

書家自身は、先天性ダウン症というハンディを背負っています。書家である母親と一緒に5歳で書道を始め、天真爛漫な明るい性格、人を思いやるやさしい心をもち、障がいはある個性を尊重して希望をみつけだした父母の想いが実を結びました。

10歳に般若心境を写実し、再度20歳には仕上げています。「共に生きる」「希望の光」「月光」「愛」他多くの作品。

障がいを持っていても発達の道すじは同じであるという考え方があります。障がいを誰もが持ち合わせている「個性」と捉えていくことで可能性は必ずやひろがっていくのではないでしょうか。苦難の道のりをまさに亡き父の夢と母娘で乗り越え実践してきた道のりを体感できたことを嬉しく思います。

ドクターJのメッセージにあったと思いますが、ここをフリーにして発想を転換するプラスの「宝物探し」こそが療育に携わっている私たちの責務ではないでしょうか。

※「ちむぐくる」とは沖縄で「人の心に宿るより深い想い」を表す言葉だそうです。

金澤翔子美術館

いわき市遠野町に2011年12月開館しました。

編集後記

先日、TVで新発見！やせるホルモンで病の元凶「肥満」を解消SPというのをやっていた。やせるホルモンとはGLP-1というもので糖尿病治療の切り札として使われ始め、患者の体重を落とすことに成功しているという。このGLP-1はどんな人の身体の中にもあるホルモンで人によって食後の分泌量が異なるという。太っている人とやせている人で

同じ食事後のGLP-1の分泌量を測定すると、太っている人は、50%以下であったのに対し、やせている人は60~540%であった。やはりGLP-1が多く分泌されると太りにくくなるようである。GLP-1は小腸の下に分泌する細胞が多くあり、そのため小腸の下の方まで到達するような物がGLP-1をより刺激してくれる。効果的に出すため2つの栄養素があり、食物繊維とEPATである。これらを毎日のように食べていると太らない様である。さて皆様は…？（伸）